

○繁殖牝馬アマベル

1974年(昭和49年)、日本中央競馬会からフランス産のセル・フランセ種アマベルが繁殖牝馬として遠野にやってきました。当時この馬の輸入に関わった岡部長忠氏より貴重なお話を伺いましたので、ご紹介いたします。



アマベルの孫・第六アマベルと当歳牡馬(生産者: 菊池務氏) 2009年5月撮影

遠野馬通信

馬産地遠野とホースマンを結ぶ
情報誌

No.59

2021年10月1日

○長い船旅で日本へ

アマベルが日本の地を踏んだのは1970年(昭和45年)のこと。当時競馬会の職員で、馬事研修のため1969年からフランス・ソミュールの陸軍騎兵学校に併設された国立馬術学校に留学していた岡部氏は、1年間の留学を終えて帰国する際、競馬会から「セル・フランセ種の種牡馬1頭と繁殖牝馬2頭、競技用馬1頭を購入して輸送せよ」という指令を受けます。そして購入した馬の1頭がアマベル(鹿毛・4歳)でした。ちなみに「セル・フランセ種の種牡馬」とは後に遠野で繋養されることになるボウソレイユです。当時サラブレッドの種牡馬の輸送は空路が主流になっていたにもかかわらず、この時は4頭の馬を空路輸送する予算がなく、岡部氏は航路輸送することにしました。けれども鉄道のストライキでフォンテーヌブローからマルセイユまでは陸送、さらに中東戦争(1948~1973年)の影響でスエズ運河が航行できなかったため、マルセイユからパナマ周りで地球を3分の2周するという一ヶ月の長い船旅になった上に、二度の嵐に遭遇、岡部氏と4頭の馬たちは大揺れの航行を経験したそうです。

○アマベルの後継馬



さくらⅡ(母 第六アマベル)と当歳馬 2021年6月撮影

多くの困難を乗り越えて日本にやってきたフランス生まれの馬たち。それから4年後、アマベルは遠野で繁殖牝馬となります。遠野の生産者はアマベルを「明け3歳の時にフランスで行われた体系コンテストで第一位を獲得した名馬」として喜び迎えました。アマベルは遠野で9頭の子をもうけ、大障害馬グランドマーチスとの間に生まれた牝馬グランドベルによってその血統が受け継がれます。現在アマベルの曾孫にあたる牝馬さくらⅠが馬場馬として活躍中、妹のさくらⅡがアマベルの血統を受け継ぐ産駒を送り出しています。

岡部長忠氏

1941年生まれ。学習院馬術部に所属。日本中央競馬会に入会し、JRA馬事公苑に勤務中に仏国立馬術学校に留学、帰国後は中山競馬場、本部国際室、広報室等を経て2002年プラザエクウス(現・Gate J)館長に就任。名著「障害馬術」の日本語版(ベースボールマガジン社)の監修やNHKドラマの考証を行うなど、幅広く活躍する一方で、学習院大学馬術部で後進の指導にあたっている。